

施工環境に配慮を

気象条件(気温・湿度・風・日照)の影響を受けますので、施工から乾燥までに配慮が必要です。



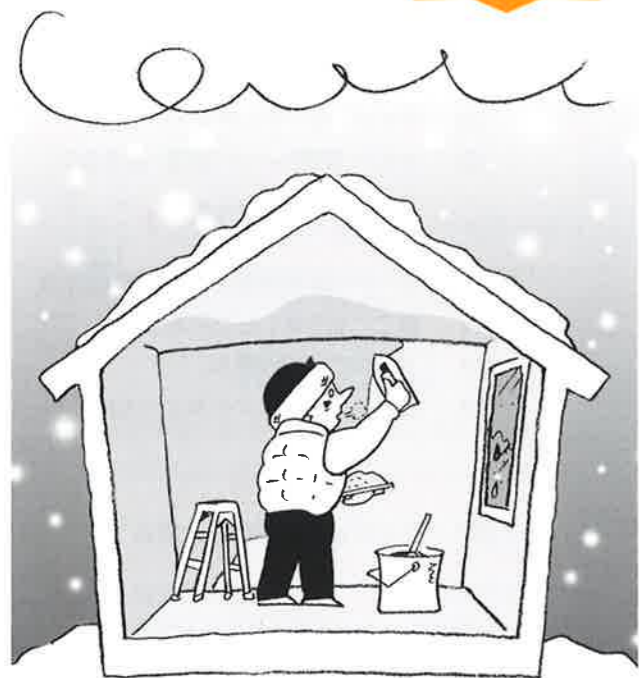
気象条件に応じて「暖房器具」や「除湿器」などを使用し、保温や調湿をはかってください。また、換気が行きとどかない部屋では扇風機などで空気の流れをつくり、湿気がたまる場所ができないようにしてください。

◀ 温湿度計の設置をおすすめします。

寒すぎる現場

色ムラ

白華現象



部屋を暖めてから施工を始めてください。
現場の温度が低くなりやすい冬季は、練り水の量をひかえ、完全乾燥まで凍結させないようご注意ください。

厳寒期は色ムラや白華現象が起きやすくなりますので、色ムラが目立ちにくい白色系の製品の採用をご検討ください。

暑すぎる現場

色ムラ

水引きが早すぎて
施工がうまくいかない



乾きが早い夏季や、大壁や吹抜けなど施工面積が広い場合は、追っかけ2度塗りの1回目の塗りに「粉つのまた」か「メトロース」を入れて施工するなど、乾燥時間を調節する工夫をしてください。2回目には「粉つのまた」「メトロース」は入れない方が施工が楽です。(入れる量は、気象条件に応じて現場で調整してください。)

急激な乾燥

硬化不良
(ドライアウト)

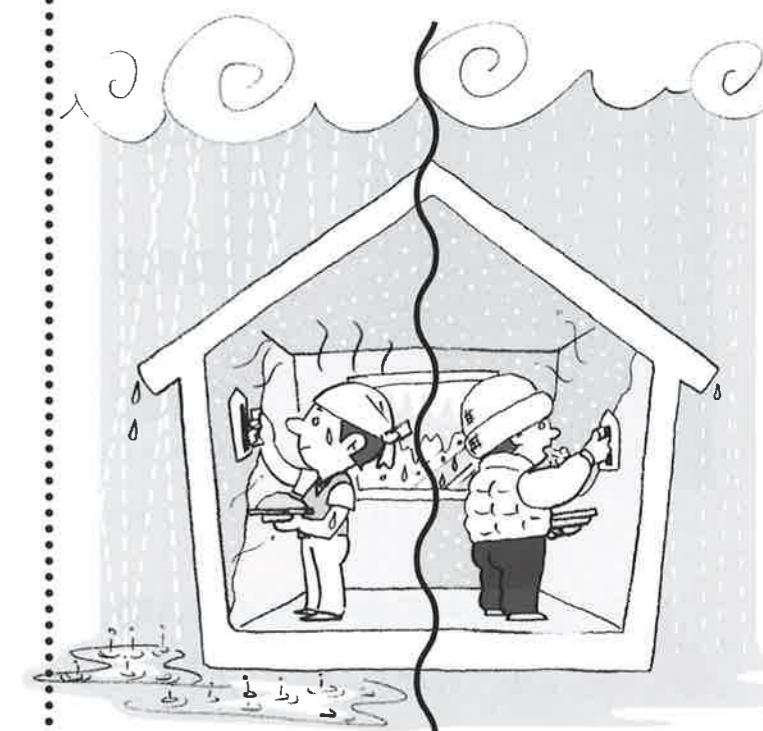
色ムラ



ジェットヒーターなどで部分的に暖めたり、風を一部だけに強く当てたりすると、硬化不良(ドライアウト)を起こして粉が手に付く状態に仕上がってしまうことがあります。また、色ムラになることもありますのでご注意ください。

多湿状況がつづく現場

色ムラ



仕上げ塗り終了後4~5日間は、室内が多湿状況にならないよう換気を心がけてください。乾燥までに多湿状況がつづくとき色ムラが起る場合があります。